指宿まるごと博物館

指宿文化遺産図鑑【第2巻】

～郷土芸能・伝統行事・有形文化財～

指宿まるごと
博　物　館
実行委員会

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

平成27年度文化庁文化芸術振興補助金
（文化遺産を活かした地域活性化事業）

目　次　CONTENTS

郷土芸能

下門猿の子踊り（池田下門）…… 4
庄五郎踊り（池田石嶺）……10
開聞しだら節（開聞地区）……16
川尻剣舞（開聞川尻区）……22
浜児ヶ水棒踊り（山川浜児ヶ水区）……28
田之畑棒踊り（東方田之畑）……34
中小路唐人踊り（十二町中小路）……40
宮ノ前唐人踊り（西方宮之前）……46

伝統行事

枚聞神社ほぜ祭（開聞十町　枚聞神社）……52
枚聞神社神舞奉納（開聞十町　枚聞神社）……58

☞動画で見てみよう！

踊りや行事の様子を動画でご覧になれます。
http://youkoso-ibusuki.com/marugoto/movielist/

有形文化財

弥次ヶ湯古墳 …… 68
上野神社周辺供養塔群…… 68
モクヨ山六地蔵塔(仙田室屋) …… 68
小川六地蔵幢…… 68
おおうなぎ群せい地 …… 69
ソテツ自生地 …… 69
上西園のモイドンなど民俗神…… 69
湯権現…… 69
殿様湯跡…… 69
指宿光明禅寺の
木造阿弥陀如来立像…… 70
木造千手観音坐像…… 70
方柱板碑を中心とする民俗神群 … 70
馬頭観音…… 70
成川板碑…… 70
前田利右衛門墓石…… 71
田の神石像…… 71
尾下の田芋田…… 71
久保庵上の方柱板碑…… 71
板碑(湯豊宿)…… 72
興玉神社(九玉大明神)の棟札…… 72
桜井神社木像銘文…… 72
今和泉島津家墓地…… 72
今和泉島津家伝来の手水鉢…… 72
第八代濵﨑太平次正房墓…… 73
利永の力石…… 73

指宿まるごと博物館 文化財マップ

郷土芸能

下門猿の子踊り

下門猿の子踊り保存会

今和泉島津家ゆかりの郷土芸能。
見る者に笑顔と感動を与える。

由来・エピソード

江戸時代に、今和泉の領主、島津忠郷が日向で出会った猿使いの芸に感激し、その猿使いを連れてきて、春秋2回、領民の労を慰めるために踊らせたものが、起源と言われている。

猿は、田や山の神の使いと考えられていたことから、豊作を祝う意味も含まれているという説もある。

開聞上野地区にも、「猿の子踊り」が伝えられている。

見どころ

下門猿の子踊りは、猿たちの可愛い表情や動きが最大の魅力です。親猿役、中猿役、子猿役が一生懸命に猿使いの命令に従い動こうとしますが、なかなか上手くいかない様子が微笑ましいです。最初から最後まで、猿の動きから目が離せません。

指宿まるごと博物館 ミニ情報

下門猿の子踊りは、昔は男子だけで踊られていた。しかし、地域の少子化が進み、男子だけでは踊り手が足りなくなってしまったことから、現在は、女子も踊っている。貴重な市指定無形民俗文化財を将来に残すため、地域や学校、家庭が一致団結して保存継承活動に取り組んでいる。

歴史ある郷土芸能ができるまで

ステップ1 踊り手は？

下門猿の子踊り保存会

「下門猿の子踊り保存会」は、池田小学校に通う児童と下門地区に住む保存会員を中心に構成されている。保存会員は、笛、太鼓、鉦を演奏し、子どもたちが猿使い役と猿役を担う。

以前は、下門地区の子ども達だけで踊り手が構成されていたが、子ども達が少なくなり、現在は、下門地区以外の子ども達も猿役として参加している。

ステップ3 練習風景を見てみよう

ステップ2 必要な道具や衣装は？

【猿使い】

【猿】

【猿使い】
1 烏帽子
2 鉢巻
3 羽織
4 袴
5 扇子
6 御幣

【猿】
7 帽子
8 衣装
9 御幣

【楽器】
10 鉦
11 笛
12 太鼓・バチ

池田小学校の児童達が夕方から体育館に集まり、下門地区の保存会員から指導を受けて猿の子踊りの伝統を受けついでいる。

ステップ4
さあ、いよいよ本番！一緒に楽しみましょう！

※赤文字は猿使いの口上

猿使いの登場。親猿が猿使いの元に行く。
『さてさて　よもざるどもは　里下りをして　このだごの木をみかけて来たなおお　それなら　帰りて　まごひこ子供を　皆　連れてこい』

親猿が子猿たちを引き連れてやってくる。

『さてさて　よもざるどもは　だごがほしいなら　「いなほい」のはれをいたせ』

『「いなほい」のはれもよいが
「こうがらし」の行をいたせ』

『「こうがらし」の行もよいが　「さかがえり」の行をいたせ』

『「さかがえり」の行もよいが　「くるくる廻り」の行をいたせ』

『「くるくる廻り」の行もよいが　「はげがえり」の行をいたせ』

『「はげがえり」の行もよいが「せんつるぎ」の行をいたせ』

『「せんつるぎ」の行もよいが　「とびごえ」の行をいたせ』

かがんだ猿の背中を上手に飛びこえる。

『さてさて　よもざるどもは　だごがほしいなら　とどいてみよ
とどいても　とどかんなら　ゆーさゆーさと　ゆすってみよ
ゆすっても　あえんなら　こちらが1つ　とってふれまおう
やあ　あすこもか　やあ　こうこもか　やあ　まあだもか
それどもふるわんなら　ぱらぱらとまいてふれまおう』

まかれただごをひろいにいく猿たち。

『だごもたんぶらいと　ふるもうたが　もとのみやまに　からからと帰れ』
猿たちは横転をしながら帰ります。子猿はだこのまわりをうろうろする。
だごを分け与えながら食べて、親猿に肩ぐるましてもらいながら帰る。

ステップ5
どこに行けば見られるの？

◎練　習：池田小学校体育館
◎本　番：池田小学校運動会／池田小学校
　　イッシー祭り／池田小学校（11月）

郷土芸能

庄五郎踊り

庄五郎踊り保存会

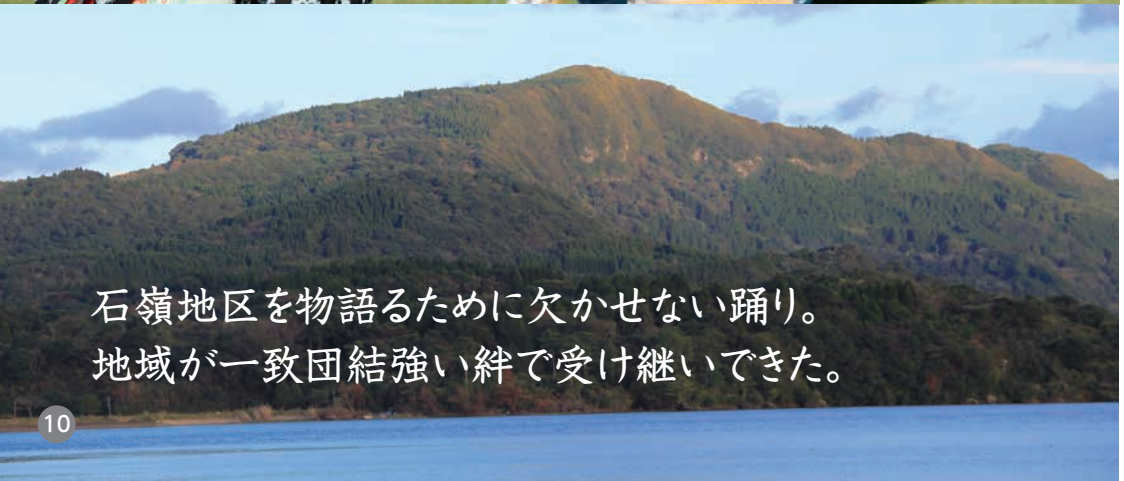
見どころ

「庄五郎踊り」は、踊りの振りが変化に富んでいて、「見よう見まねが出来ない」踊りといわれ、一連の振り付けを覚え、披露出来るまでに2～3年かかるそうです。こうして練習を繰り返していく中で、踊り手同士の交流が盛んになり、一致団結して地域を盛り上げる役割が、この踊りにはあるようです。

元保存会長
冨山春吉さん

由来・エピソード

保存会によると、池田信濃守が居城した「清見城」を当時の頴娃・山川・指宿を治めていた肝付兼政が攻め入り、城内での激しい戦いとなったが、池田軍勢が善戦し、肝付軍勢を退けたと言われている。この戦勝を喜ぶ宴で、池田軍勢の武士「庄五郎」が殿様の前で面白く踊った踊りが「庄五郎踊り」の始まりとされ、現在でも石嶺地区で守り受け継がれている。



指宿まるごと博物館 ミニ情報

現在、「庄五郎踊り」の太鼓と唄を兼ねて担当している久保シヅエさんは、取材当時85歳。この踊りは、昔は女性も踊っていた時期があり、久保さんも、その頃の踊り手の1人。唄の担当になってからは、女性2人で唄っていたが、15年前から、久保さんが1人で太鼓と唄を担っている。

太鼓奏者・唄手
久保シヅエさん

ステップ1 踊り手は？

庄五郎踊り保存会

「庄五郎踊り保存会」は、石嶺地区の成年の住民が中心となり活動している。

昭和51年11月の池田小学校創立100周年記念の式典では、運動場で庄五郎踊りが披露され、70人の石嶺地区の人々によって踊られた。

ステップ2 必要な道具や衣装は？

【衣装】

1 鉢巻
今は白色のみを使う

2 久留米絣（くるめかすり）

3 帯
手甲、脚絆と同じ青色

4 手甲（てこう）

5 たすき
赤・白・青・色柄物のうち2本を使う

6 前掛け
昔から伝わる色鮮やかな柄

7 脚絆（きゃはん）

8 白足袋（しろたび）

9 山草履（やまぞうり）

【楽器】

10 太鼓

11 鉦（かね）
踊り手に踊る場所の立ち位置を知らせたり、入場や退場の時に叩く

たすきの結び目

ステップ3 練習風景を見てみよう

公民館に集まり、本番と同様、真剣に踊られる

ステップ4 さあ、いよいよ本番！一緒に楽しみましょう！

庄五郎踊りは、歌詞の1番から5番までと、6番から9番までの二種類の踊りで踊られる。

かがんだ状態から踊りがはじまり、正面を向いて右手・右足、左手・左足を同時に上げ下げしながら踊られる。また、頭上に手を掲げたりする。その時の視線は指先を必ず見つめなければならないそうだ。

歌詞

一、今度この町にゃ八十余の親父殿。おーきーには、こめろをあらまし、
隠居の婆様それを聞く。（アーソーライ）

二、四十五起きろよというたれば、おーきーには、隣の挨拶、婆様を眺むる庄五郎殿。
婆様を眺むる庄五郎殿。おーきーには、隣の挨拶、婆様を眺むる庄五郎殿。
（アーソーライ）

三、よんべ来たいのは猫じゃ猫じゃと、おさんすが、ああ猫が傘差い、木履ふんで、
みわばくせかせーて来るものか。（アーソーライ）

四、小鳥品じな、こがら山雀、四十雀。おーきーには、鷺鳥、駒鳥、雲雀に鶯、時鳥、
雲雀に鶯、時鳥。おーきーには、鷺鳥、駒鳥、雲雀に鶯、時鳥。（アーソーライ）

五、桜、品じな、彼岸桜や人桜。おーきーには、おでんしもがま惚ぼれす。
とらのをちりかやす。惚ぼれす。とらのをちりかやす。おーきーには、
おでんしもがま惚ぼれす。とらのをちりかやす。（アーソーライ）

六、島の権現にゃ、娘の髪をな、アラ三度、そうじゃろかい。
空では通わんでろ、お市後家じょ、ああそうかい、そうじゃろかい。
（ソージャロ、ソージャロ）

七、竹にゃ雀がな、品よく止るなあ、止めて、そうじゃろかい。
止らぬ色の道を、お市後家じょ、アラそうかい、そうじゃろかい、
（アーソージャロ、ソージャロ）

八、東ゃ松山なあ、袈裟じょうらい、どーこるなあ、おーわた、そうじゃろかい、
空では通わんでろ、お市後家じょ。あそうかい、そうじゃろかい。
（アーソージャロ、ソージャロ）

九、山川よいとは誰が言たか。前は海、ドスコイ、後は高い松山、コチャ後は高い松山。

左右に手押しをするような所作や、ものを持つような仕草で回転するなど、変化に富んだ踊りが続く。

歌詞の6番からは、それまでにない所作の踊りになる。両手を前に出したり、両手を上にあげたりして踊られる。

ステップ5 どこに行けば見られるの？

◎練　習：場所／石嶺自治公民館
◎本　番：●石嶺地区　花見（4月）
●池田校区　六月灯（8月10日）
●石嶺敬老会（9月）
●池田小学校・校区運動会（10月）
●指宿酒造　新酒祭り
（りえもん祭）（10月下旬）
※全ての行事に毎年出演するとは限らない。

郷土芸能

開聞しだら節

開聞しだら節保存会

開聞に伝わる神話を今に伝える舞。
美しさと悲しさを唄と舞で表す郷土芸能。

由来・エピソード

開聞しだら節は、開聞に伝わる伝説の一つが基になっていると言われている。伝説によると、開聞岳の麓「天の岩屋」で雌鹿の口から生まれた「瑞照姫」は、才色兼備であったといわれ、13歳の時に名前を「大宮姫」に改めた。後に、天智天皇の后として宮中に召されたが、その美貌と出世は、多くの女官達の妬みの的になっていた。実は、大宮姫には秘密があり、足の爪が二つに割れていた。まるで“牛の爪”のようであったそうだ。大宮姫は、いつも足袋をはき、見せないようにしていた。宮中の女官達は、大宮姫の爪の噂を確かめるため、大宮姫と雪合戦をして遊んだ。ふとしたはずみで、大宮姫の足袋が脱げ、大宮姫の素足が女官たちに見られ、辱めを受けることとなった。それがきっかけで大宮姫は宮中を離れて故郷の開聞に帰る決心をした。十数人のお供とともに船で開聞に帰ることとなった道中、大宮姫は、天智天皇との別れを悲しんでいたため、それを慰めるため、お供が考案した唄と舞が「しだら節」と伝えられている。現在、受け継がれている「開聞しだら節」は、大宮姫が宮中から開聞に帰る道中をあらわしたものと言われている。

大宮姫が船で着いたとされる港「皇后来」

見どころ

大宮姫伝説の内容に沿って、踊りが展開していきます。大宮姫とお供する進女達の開聞への道中を表現するため、舞台では船が現れます。大宮姫の悲しい心境や進女達の姫を気遣う様子が舞で表現されています。

また、開聞しだら節をご覧になられる前に、「大宮姫伝説」を読まれることをお勧めします!

指宿まるごと博物館 ミニ情報

「開聞しだら節」の唄は、当時唄っていた方によると、「この唄は、いつでもどこでも唄うものではなく、高貴な方の前だけで歌ってきた」という経緯があり、誰にでも唄ったり教えたりすることがなかったようだ。このことから、この郷土芸能は、尊いものとして大切に継承されてきたことが分かる。

歴史ある郷土芸能ができるまで

ステップ1 踊り手は？

開聞しだら節保存会

「開聞しだら節保存会」は、開聞地域に住む女性が中心となり、開聞郷土芸能祭で披露するほか、要請があれば、市内のイベント等に出演している。

ステップ3 練習風景を見てみよう

開聞郷土芸能祭への出演に向けて、練習が行われる。練習であっても、着物を着て真剣に練習する様子が印象的である。

先輩の所作や発声の仕方を真剣なまなざしで見て、踊りながら覚えていく。

ステップ2 必要な道具や衣装は？

【衣装】

◎大宮姫
- 1 笠
- 2 飾り付かつら
- 3 帯
- 4 着物
- 5 白足袋

◎優波船頭
- 1 バッチョ笠
- 2 タオル
- 3 羽織
- 4 たっちけ袴
- 5 帯
- 6 手甲
- 7 黒足袋

◎進女
- 1 頭巾
- 2 着物
- 3 帯
- 4 手甲
- 5 脚絆
- 6 白足袋

【道具】
- ❶ 懐刀
- ❷ 傘
- ❸ 櫓櫂
- ❹ 鍬
- ❺ 壺
- ❻ 船(皇后来丸)

ステップ4 さあ、いよいよ本番！一緒に楽しみましょう！

①大宮姫の登場

優波船頭（ゆうなみせんとう）が大きな櫓櫂（ろかい）で操る「皇后来丸」に大宮姫が乗っている。開聞岳の西側の浜「皇后来」から生まれ故郷の地、開聞に上陸する様子から始まる。

②ヨシを植える

優波船頭は鍬を持って畑地を耕し、進女たちはヨシの種を撒いていく。

③優波船頭と進女の舞

優波船頭と進女は傘や懐刀を使って踊り、悲しんでいる大宮姫をなぐさめる。

④大宮姫の舞

優波船頭たちの舞を見て、元気を取り戻した大宮姫がみんなと一緒に優雅に舞う。

⑤優波船頭の帰路

元気を取り戻した大宮姫を見て、安心した優波船頭が帰っていく。それを大きく腕を振って見送る大宮姫たち。

設楽曲（志多羅節）

一　京から進女が三つ連れで　また三つ連れで六つ連れで
先なる進女が物いわず　後なる進女も物いわず
中なる進女が言うことにや　おらが局は細けれど
こがね遺戸に玉すだれ　戌亥のすみにカメすえて
カメのまわりにヨシ植えて　よしやしやとな去年より、
ことしは尚よかろよな

二　京の九貫の小脇差　八貫めのぎを巻きこめて
通られたよな　何所の関を通られたよな

三　七つの子が八つの子の方に文をやり
書いたよぎょうな　書いたる文の上　上書よな

四　まんまるおじゃれ　まんまるおじゃれ
十五の月の輪のように　十五夜の月の
さしたる影はなし　一つの宮がさ二つの宮がさ
丹波のイチの越後笠

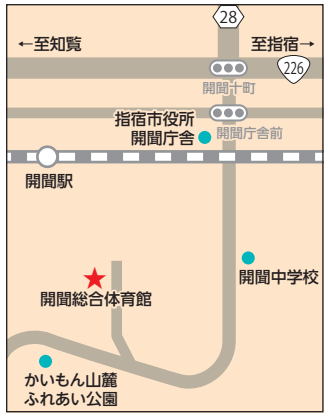
五　笠を忘れたヨイヤナ　駿河や茶屋で
空が曇れば思いだす　思いでたよなこの床とりて
二人ねたもの二の床に

六　あの鴨川にさらす布がナァ　三つばかり
一は殿のカミシモ　そのカミシモを
美人のクヤにやいそめて　肩にやゲンジ
裾には小浜のエ　裾には柳の薄みどりよな

ステップ5 どこに行けば見られるの？

◎練　習：場所／開聞総合体育館　サブアリーナ
9月初旬に行われる開聞郷土芸能祭に向け、8月下旬から練習が始まる
また、各種イベントへの出演に併せて、随時練習が行われる

◎本　番：開聞郷土芸能祭（9月第1日曜日）
場所／開聞総合体育館　サブアリーナ



郷土芸能

川尻剣舞

川尻民踊保存会

漁村を守る女性たちの勇ましさを表した踊り。
女性の強さと勇ましさが輝く。

由来・エピソード

保存会によると、剣舞は大正末期ごろから伝承されていたとされる説があるほど、長い歴史があるそうだ。昭和46年に川尻地区の納骨堂が竣工された記念に披露されたころから、川尻地区の女性による「川尻民踊保存会」が剣舞や大漁節を踊るようになったと言われている。開聞町郷土誌によると、川尻は藩政時代から漁村として発展し、地区内の男性はほとんどが出漁していた。そのため、地区の行事や家事は女性の手に委ねられていた。男性たちの留守を守る女性は、男性に負けないように剣舞を踊り、地域を盛り上げていたようである。

見どころ

「川尻剣舞」は、詩吟の「福島中佐」が歌詞となっています。袴姿で腰に短刀を差し、勇ましい姿で舞います。唄と太鼓に合わせて、勇壮に力強く舞う女性たちの姿は、川尻地区の歴史の一幕を表しているようです。

指宿まるごと博物館 ミニ情報

保存会によると、かつて「川尻剣舞」には「四十七士」という演目があったそうだ。こちらの舞も大変勇壮な舞であったそうだが、勇壮であるが故に体力も相当必要であったそうだ。保存会員の高齢化や後継者不足も重なり、現在は「福島中佐」だけが舞われているそうだ。

歴史ある郷土芸能ができるまで

ステップ1 踊り手は？

川尻民踊保存会

「川尻民踊保存会」は、川尻在住の女性が中心で、13名で活動している。

開聞郷土芸能祭と川尻地区の敬老祝賀会などで披露している。主に川尻地区で行われる行事で披露することが多く、地域住民から親しまれている。

ステップ2 必要な道具や衣装は？

【衣装】
1 白鉢巻（しろはちまき）
2 紋付（もんつき）
3 袴（はかま）
4 帯
5 たすき
6 白足袋（しろたび）

【道具】
7 短刀（たんとう）

【楽器】
8 締太鼓（しめだいこ）
9 三味線（しゃみせん）

ステップ3 練習風景を見てみよう

先輩の手ほどきを受けながら、練習が行われる。

練習は、川尻ふれあい交流館で行われる。本番披露に向けて、唄と楽器の演奏が響く中、息を合わせて練習に励む。

ステップ4 さあ、いよいよ本番！一緒に楽しみましょう！

目線や掛け声を合わせるところが、難しいようだ。踊りの最中は、指を閉じるよう保存会では指導されてきたそうだ。

歌唄に合わせて、真っすぐに伸ばした人差し指や、すきまなく閉じられた指先が美しい。

『腰に差したる日本刀　抜いてロッコを払いつつ～』の歌唄に合わせて刃が抜かれ、見事な刀さばきの所作が見どころ。

舞の中で、刀は3回抜かれる。
最後は「失敬」のかけ声に合わせ、片ひざをつき、刀を右側頭上に突き上げる。

福島中佐（日露戦争）

忠勇美談の振舞は　福島中佐の遠征に　いななく駒にむちをあて
進み行く道は白露の　鳥も越せん峯続き　アルタイおろしの大吹雪
寒風　肌えをつんさくも　降りこそしげき　雨あられ
炎熱　骨をとろかすも　行けど果てなき　砂漠の地
蒙古の月が　冴ゆる夜に　木の根を枕　岩影を
仮の馬屋と頼みつつ　人も恐れるシベリヤの　猛獣群の　なく中を
腰に差したる日本刀　抜いてロッコを払いつつ　三千五百十四里も
ふみわけ越えし旅ごろの　矢立て心の一念は　なるとならぬの二道ぞ
其一道は死するのみ　のり行く駒は倒るとも　もしや命の絶えるまで
後えは　引かん大丈夫が　千苦万苦の功をつんで
めでたく帰朝のとき得たり　天皇陛下に拝謁し　老若男女が寄り集う
歓喜唱歌の声高く　異名を天下にとどろかせ
武運の　鏡と後の世に　君が誉は国のため　失敬

唄い手
丸山正代さん

ステップ5 どこに行けば見られるの？

◎練　習：場所／川尻ふれあい交流館（川尻校区公民館）
　　時期／毎月第1･第3木曜（変更あり）
◎本　番：川尻区御伊勢祭／川尻地域内（6月上旬）
　　開聞郷土芸能祭／開聞総合体育館　サブアリーナ（9月第1日曜）
　　川尻地区敬老祝賀会／川尻ふれあい交流館（9月中旬）
　　開聞地域文化祭／開聞総合体育館　サブアリーナ（11月上旬）

郷土芸能

浜児ヶ水棒踊り

浜児ヶ水棒踊り保存会

五穀豊穣と無病息災を祈る棒踊り。
浜児ヶ水区の誇りとして、大切に受け継がれる。

見どころ

三尺棒と六尺棒を素早い動作で打ち合う踊りで、タイミングがずれると、大怪我につながる恐れがあります。息を合わせて踊る子どもたちの真剣な表情が印象的です。

また、列の中央に立つ2人が前後に素早く入れ替わる姿も必見です!

由来・エピソード

山川町誌によると、浜児ヶ水区の棒踊りの始まりは、現在の県立山川高校の前身である山川町立山川青年学校創立4周年記念体育祭(昭和17年9月ごろ)に各地区の青年団が出場することになり、その当時、浜児ヶ水区には棒踊りがなく、福元区の青年団から棒踊りを習ったことがきっかけで、今日まで継承されている。

現在では、子ども会活動の一環で、徳光小学校3年生から6年生が保存・継承活動に取組んでいる。

指宿まるごと博物館 ミニ情報

棒踊りは、鹿児島が生んだ独特の芸能で、その起源は諸説ある。浜児ヶ水棒踊りは、田植祭に始まったといわれ、棒を叩き合うことで悪霊を退散させ、地面を棒で突き、土地の精霊を呼び覚ます踊りとして伝えられているという。

ステップ1 踊り手は？

浜児ヶ水棒踊り保存会

「浜児ヶ水棒踊り保存会」は、浜児ヶ水区の子ども会活動の一環として、浜児ヶ水区に住む小学3年生から6年生が中心。場合により、大人も一緒に踊る。昔は、青年団らの大人が踊り継承されていたが、やがてそれが難しくなり、一時期途絶えた。その後、子ども会活動による保存継承活動が始まり、現在に至っている。

ステップ2 必要な道具や衣装は？

【衣装】

1 鉢巻（はちまき）
浜児ヶ水こども会と書かれている

2 浴衣（ゆかた）

3 帯

4 たすき
赤と青色の2色

5 手甲（てこう）

6 脚絆（きゃはん）

7 ワラジ

【道具】

8 三尺棒
両端の踊り手が持つ

9 六尺棒
中央の踊り手が持つ

【楽器】
CDによる演奏のため、使用しない

ステップ3 練習風景を見てみよう

大人の保存会員から指導を受け、練習に取り組む。

指導者から手ほどきを真剣に受けながら体で覚えていく。

ステップ4 さあ、いよいよ本番！一緒に楽しみましょう！

◯ 六尺棒を持つ踊り手
◯ 三尺棒を持つ踊り手

②	④	⑥
①	③	⑤

1.六尺棒を持つ踊り手は、床に棒を突き立て、三尺棒を持つ踊り手は右腰に棒を差すように持つ。

2.六尺棒を持つ③と④は、それぞれ左右の踊り手の棒を上で受け止めた後、三尺棒を持つ踊り手が床を棒で突いている間に前後を入れ替わる。

3.入れ替わった③と④は左右の踊り手の棒を上で受ける。その後、前後でそれぞれ打ち合い、再び③と④は左右の踊り手の棒を上で受け止め、前後を入れ替わる。

浜児ヶ水棒踊りの唄

入場：オセロが山で　前は大川（だいかわ）
一、鎌ん柄が折れた　三ばおくれた
二、焼野のキジは　岡の背に住む
三、霧島山は　黄金（こがね）花咲く
退場：嫁女が通る　寄て慰む

ステップ5 どこに行けば見られるの？

◎練　習：場所／浜児ヶ水集落センター又は
　　徳光小学校
　　時期／5月上旬、9月下旬～10月上旬
◎本　番：浜児ヶ水区運動会
　　／浜児ヶ水運動広場（5月）
　　徳光小学校運動会
　　／徳光小学校校庭（10月）

郷土芸能

田之畑棒踊り

田之畑棒踊り保存会

めでたい踊りとして地域で親しまれた郷土芸能。
地域の人々によって、代々受け継がれていく。

由来・エピソード

保存会によると、「田之畑棒踊り」の由来は、島津義弘公が文禄・慶長の役で大活躍したことを祝い踊られたものが、今に伝わっているそうだ。最近では、新築祝いや結婚式などのお祝い事で披露する踊りとして、保存・継承されている。

頭につけた兜をあしらった鉢巻と、色鮮やかな衣装が特徴的である。

見どころ

体全体を使って踊られ、威勢のよい掛け声とともに、跳ねる動作も見られます。一糸乱れぬ踊りは、軽快さや力強さ、勇ましさが印象的です。

指宿まるごと博物館 ミニ情報

保存会によると、昭和42年ごろからしばらくの間、女性が踊り手を担っていた時期があり、昭和45年10月に行われた「指宿小学校創立100周年記念式典」で田之畑棒踊りを披露したそうだ。その当時、式典で披露した女性は、「元気いっぱいにみんなの前で踊ったことが、今でも思い出になっている」と話す。郷土芸能が、地域で親しまれ、大切にされていることが伺える。

昭和45年、指宿小学校創立100周年記念式典時の記念写真

ステップ1 踊り手は？

田之畑棒踊り保存会

「田之畑棒踊り」は、指宿市東方（ひがしかた）の田之畑地区の男性で構成される。踊り手のほかに、太鼓役（たいこやく）と鉦役（かねやく）がいる。会員の年齢層は幅広く、和気あいあいとした雰囲気で郷土芸能の保存継承活動に取組んでいる。

また、指宿小学校の6年生が運動会で披露するために、保存会の会員が指導し、校区内の次世代への継承活動も行っている。

ステップ3 練習風景を見てみよう

練習は、田之畑地区公民館で行われる。練習の時期は不定期で、出演・披露が決まったら、それに併せて練習が行われる。

夜の練習の場合、投光機を使い公民館前の道路上で行う。

ステップ2 必要な道具や衣装は？

【衣装】

1 鉢巻
兜をあしらっている

2 絣（かすり）の着物

3 帯

4 たすき
赤色、青色、黄色の3色

5 胸当て

6 前掛（まえか）け

7 手甲（てこう）

8 脚絆（きゃはん）

9 ワラジ

【道具】

10 鉦（かね）

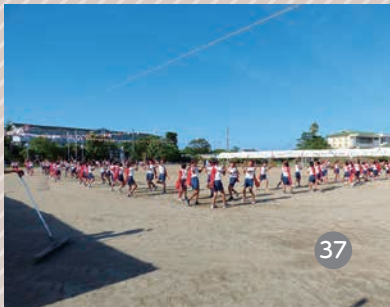
11 太鼓（たいこ）・バチ

12 三尺棒

13 六尺棒

たすきの結び目

指宿小学校の児童へ次世代への継承も行われている。



ステップ4 さあ、いよいよ本番！一緒に楽しみましょう！

◯ 六尺棒を持つ踊り手
◯ 三尺棒を持つ踊り手

6人1組の踊り	4人1組の踊り
② ④ ⑥	② ④
① ③ ⑤	① ③

一番の踊り

6人1組で踊られる。
③は①②、①⑤、⑤⑥と棒を打ち合いながら、④と前後入れ替わる。
④は⑤⑥、②⑥、①②と棒を打ち合いながら、③と前後入れ変わる。
これを2回繰り返しながら、踊られる。

二番の踊り

③は①と②の、④は⑤と⑥の間に素早く入り、それぞれの棒を上で受け止める。
次に、③は①と⑤の、④は②と⑥の間に入り、それぞれの棒を受け止める。
最後に、③は⑤と⑥の、④は①と②の間に入り、棒を受け止める。この入れ替えを2回行う。
踊り手は棒を打ち合う直前に飛び跳ねる。

三番の踊り

4人1組で踊られる。前列の①と③が後列の②と④の足元を棒で突くことが特徴。
また、前列と後列が入れ替えし、前後･左右の棒と打ち合いながら踊られる。

四番の踊り

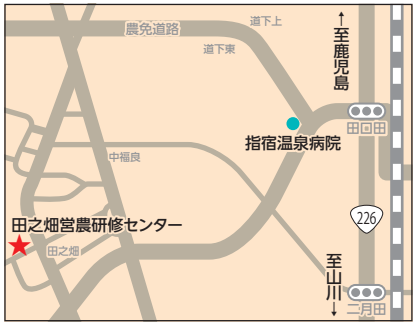
再び6人1組で踊られる。
③は⑤⑥と、④は①②と打ち合い、③と④は前後を入れ替える。
次に、③は①②と、④は⑤⑥とそれぞれ打ち合いした後、③と④は前後を入れ替える。
これを2回繰り返し、前後･左右の棒と打ち合いながら踊られる。

田之畑棒踊りの唄

入場：鎌ん柄がおれた　三把おくれた
一番：霧島山に　黄金花咲く
二番：山太郎ガネは　川の瀬にすむ
三番：おせろが山で　前は大川
四番：清めの雨は　パライパライと
退場：鎌ん柄がおれた　三把おくれた

ステップ5 どこに行けば見られるの？

◎練　習：場所／田之畑営農研修センター
　　時期／不定期
◎本　番：特に決まっていない。



郷土芸能

中小路唐人踊り

中小路唐人踊り保存会

江戸時代、琉球から薩摩に渡った使者が伝えた踊り。
文化交流から生まれた異文化情緒の溢れる郷土芸能。

見どころ

男性だけで踊られていて、振り付けは、体全体を大きく使ったり、ゆっくりとした動きが特徴的です。中小路唐人踊りで唄われる歌詞は、意味が分かっていません。この謎めいた歌詞が、異国文化から伝えられた雰囲気があります。

由来・エピソード

中小路唐人踊りは、約180年前の出来事が基になったと言われている。

保存会によると、江戸時代、琉球王国は徳川家などに貢物を届ける使節団を派遣していた。あるとき、琉球の使節団が船で帰る途中、大風雨に遭い、命からがら現在の山川港に避難した。天候が回復せず、避難生活が長期間に及んだため、食料を欠くようになった琉球王国の使節団の使者らは、指宿や喜入前之浜方面に分散し、分宿した。琉球王国の使者が避難先で披露した踊りが、現在まで伝承されている。

指宿まるごと博物館 ミニ情報

保存会の会員にとって、唄い手は憧れの役らしい。

ただ、中小路唐人踊りの3種類の踊りの歌詞は全てカタカナ表記。

唄い手も意味が分からない歌詞もあるとのこと。由来が琉球使節団から聞き覚えのためかもしれない…

唄い手
左:今釜富久さん
右:今柳田貢さん

ステップ1 踊り手は？

中小路唐人踊り保存会

昭和35年10月1日に踊られた時の写真（踊り手は全員女性）

中小路唐人踊り保存会は、中小路地区の住民を中心に活動している。現在は男性だけで踊り手は構成されているが、過去には、女性が踊った時期があったようである。

楽器は、太鼓と鉦が各2名を基本とし、踊りの中で鳴らされる。

人数は特に決まりはなく、人数に応じて、踊る隊列の数が変わる。

ステップ3 練習風景を見てみよう

ステップ2 必要な道具や衣装は？

【衣装】

1 鉢巻
琉球王国の尚氏の家紋が描かれている

2 着物

3 帯
鉢巻・手甲・脚絆と同じ紫色に統一されている
紫は琉球王国では高貴な色

4 たすき
赤と黄色の2色

5 前掛け
金色で丸に十の字と2本線が描かれている

6 手甲（てこう）

7 脚絆（きゃはん）

8 足袋（たび）

9 ワラジ

【道具】

10 鉦（かね）

11 太鼓・バチ

12 ウッバ
軍配の形をしている

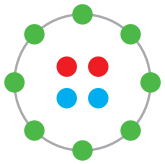
六月灯前の練習では、地元の小学6年生や中学生が練習に参加し、保存会員と一緒に練習に励む様子が見られる。

ステップ4 さあ、いよいよ本番！一緒に楽しみましょう！

- 鉦を持つ踊手
- 太鼓を持つ踊手
- 軍配を持つ踊手
- 道具を持たない踊手

鉦と太鼓を持つ踊り手が2人ずつ、その後ろに軍配を持つ踊り手が続いて入場する。

出立の踊り

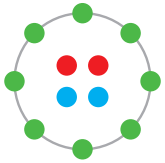


鉦と太鼓の持つ踊手4人で内側の円を、軍配を持つ踊手が外側の円を作って踊る。
唄に合わせながら、鉦と太鼓を叩き、片足で飛び跳ねながら軽快に踊る。

中踊り

道具を持たず、人数によって2列または3列になって踊る。腕を伸ばし左右に振りながら飛んだり、はるか遠くを望んだりするような所作が特徴的である。

末踊り



それぞれの道具を持ち、出立の踊りと同様に二重の円を作り踊られる。
基本の所作は出立の踊りに良く似ている。

六月灯では、中小路地区の中学生たちも日頃の練習の成果を大人たちと一緒に披露する。
次の世代への継承も確実に行われている。

歌詞

出立踊り

ニッポンノキツネ　タバクレバ　サンヨーチギョウトラルウウ
モウテンヨー　ア　モウテンヨー　モウテンヨー
アメルワヘイ　イヨ　イチレテ　ナナヤワキャクナカ
ダンタアツーシモツンネエタ（アコノ）
シンキンヤ（ソイジャガ）オキョヒロノー　メシタバコ
ヤアアケサネ　キャクフノフンジャ　アヤハハンハン（アソライ）
チョウキン　ヨウキン　サンキンチョー（ソレ）ツレヨテ　ナナヤワシレ
オワイゴテテンノー（ホイ）
イヨモンドーローヤ　イコメイヤ　アフフンフン
イヨモンドーローヤ　イコメイヤ　アフフンフン
イヨ　サンキレテナナヤワハチレール　ア　ニンジン
ソーモン　テントーホ（アコノ）シンシンホ（ホーハイレ）レンシーレンシーホ（アコノ）
オヒハヒホ（ソイジャガ）ゼヒハヒホオ　ヤアアアコレナ　ハルフテシンキ
アヤハハンハン（アソライ）カアカアカアルモソオクウメ（ソレ）
ジュモメノカネガワ　エコイチゴタア　ゴテテンノオオホイ
イヨニュア　クウアニュアク　ア　フフンフン
イヨニュククウニュ　クワニュ　ア　フフンフン

中踊り

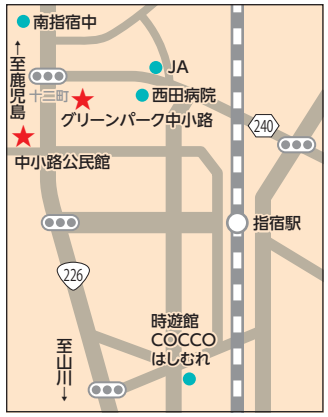
一、イチヤハーンノミイチ　アワトキビヲウーエテ（ホイ）
アワズカエルトキノキビノワアルサ
アラベエノヨイサッサッ
二、ナベガサヅキンノハナヨヤスウヤ
イイレコ　ナーアベ　ナベガサデ（ホイ）
ナベガサンニヤン　コンツノコンツノ　ウドガサデ
アラベエノヨイサッサッ
三、タトヤア　オキイフネ　ナンガシヨオノウノイカアリ（ホイ）
エーンノヅナーンツネンナアキヤサトリグサ
アラベエノヨイサッサッ

末踊り

キョウノオオツチエノオ（スミレノテルゥワッ）
アレアッパガスサヨヤーズキンスサッ
ナカンズウムッシヨウ　インインオーダサッ
ワアセエンズウムショッ　インインインオオダ
アアレナンセンブウラァブウラア　ヤホイヤイヨナンセン
バアヒラナ　ツヨノォタマテェ　カイジャッサッ
オザマンキョォンヨン　ザンケッジャ
ハレワイクワンザンゼットォジャ
ハレワレサカジャホイ　サカジャ　ソンサカスサッ
アッエンベスダイコクジャ
ハレワイフゥルダァオォサマルエー
アサァンヤァエー　サンヨォエー
（カッコ内は、踊り手の掛け声）

ステップ5 どこに行けば見られるの？

◎練　習：六月灯の本番に向けて中小路公民館で実施
◎本　番：金毘羅神社六月灯／グリーンパーク中小路

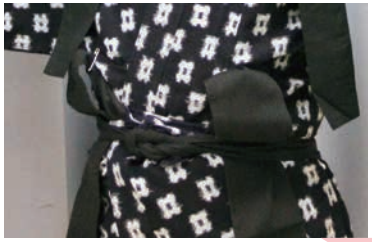


郷土芸能

宮ノ前唐人踊り

宮ノ前唐人踊保存会

薩摩と琉球の交流がきっかけで伝わった郷土芸能。
宮之前地区の悠久の歴史を今に伝える。



見どころ

宮ノ前唐人踊りの衣装で、腰に巻く帯の結び目は、独特な形をしています。その形は、体が動いても崩れないよう、ピンで固定するほど入念です。その昔、琉球から『唐人踊り』を伝えた人々が身につけていた衣装の影響なのでしょうか。

由来・エピソード

保存会によると、江戸時代、琉球王国から島津家へ貢物をする際に、次の貢物が来るまでの期間、人質を置いたとされ、その人々が島津家の指宿別邸に居候し、歌い踊ったものが、「唐人踊り」として伝えられているとされる。

この踊りを踊った宮之前地区の人々が、戦争のため出兵したところ、戦死者が1人もいなかったという話があり、めでたい踊りとして伝承されている。

指宿まるごと博物館 ミニ情報

毎年、元旦の朝に地元の「光明寺」の境内で宮ノ前唐人踊りが奉納される。新年の幕開けを飾る奉納として、地域の皆さんが見守る中で行われる。

宮之前公民館長
下川床正吉さん

ステップ1 踊り手は？

宮ノ前唐人踊り保存会

現存する最も古い記録は、明治25年頃のもの。

大正10年生まれの福崎藤八氏によると、昭和11年に踊り手と歌い手がそろい、50年ぶりに披露されたとのことである。この人々は日露戦争や太平洋戦争に出兵したが、全員が無事に帰って来ることができたことから、唐人踊は縁起の良い踊りとして継承されている。現在、地区の防犯組合のメンバーを中心とした保存会が継承している。

宮ノ前唐人踊り保存会は、宮之前地区に住む男性で構成される。30年以上前から、地域の小中学生への伝承活動として、地区で8月に行われる盆踊りで披露してもらう取組みを続けている。

ステップ3 練習風景を見てみよう

練習は、宮之前営農研修センターで行われる。平成27年11月8日に国民文化祭で披露するため、行われた練習の様子。この練習の積み重ねが、郷土芸能を未来に伝えている。

ステップ2 必要な道具や衣装は？

【衣装】

1 鉢巻
琉球王国の尚氏の家紋が描かれている

2 絣（かすり）の着物

3 帯

4 前掛け
鶴や鷹、松などのめでたい絵柄が描かれている

5 手甲（てこう）

6 脚絆（きゃはん）

7 白足袋（しろたび）

【道具】

8 トンベス

9 太鼓・バチ

10 拍子木（ひょうしぎ）

11 笛

12 傘

13 扇子

14 ウチワ
軍配の形をしているが、呼称はウチワ

ステップ4 さあ、いよいよ本番！一緒に楽しみましょう！

- 傘・扇子を持つ踊手
- 太鼓を持つ踊手
- 拍子木を持つ踊手
- 笛を持つ踊手
- 鉦を持つ踊手
- ウチワを持つ踊手

出立ちの歌

傘と扇子を持つ踊り手を先頭に、太鼓・拍子木・笛を持つ踊り手の順番で入場する。

傘と扇子を持つ踊り手は鉦に、笛を持つ踊り手はウチワにそれぞれ持ち替えて踊られる。

戻り歌

出立ちの歌と同じ道具に持ち替えて、踊られる。

光明寺の境内では地区住民が餅をつき、踊り手や見学者にふるまわれる。

出立ちの歌

一、旅の出立ち　観音堂　千手観音
　伏し拝み　黄金盃　立ち別れ（ハイヤ　ハイヤ）
二、那覇の川口出る時は　舟子勇んで
　矢帆を上げる　風をまともに　午未（ハイヤ　ハイヤ）
三、那覇を出てから三日なるが
　もはや山川　走り込む（ハイヤ　ハイヤ）

唐人踊

ニッポンナ　キツネ　タバコデワ　ソウジン
ソーラレル　モウテンヨー　モウテンヨー
カミノハワイ　イヨイチリテ
ナナヤワキャクナーカ（ヤーソーライ）
サンダーツウシオ　ツン　ネヘテ
アコノ　シンキイヤ　ソイジャガ　オキョヒドノ
ソイジャガ　メシタバコ　ヤーハーケサネ
キャクーノオンヂャヤ　ハハンハン（ヤーソーライ）
カーカーガールモ　ソークーニ　ソラ
ズモメノ　カネガワイコチゴタ　オワイゴテ
テンノーホイ　イヨモンドーローヤ
イコメンヂャーア　クンクンクンクン
イヨモンドーローヤイコメンヂャー　クンクンクンクン
イヨ　サンキレテ　ナナヤハ　ハチレニール（ヤーソーライ）
ニンジン　ソーモン　テントーホ
アコノ　ツンチンホー（オーハイレ）
デンシ　デンキイク　アコノ　オヒハヒホ
ソイヂャガ　ゼヒハヒホ　ヤーハー　コレナ
アノオテシンキ　ヤハハンハン（ヤーソーライ）
チャオキン　ヨーキン　サンギンチヨ　ソラ
ツレヨテ　ナナヤハ　ソシレ　ゴテテンノホイ
イヨノーハーワ　ノーハーフ
ア　フンフンフンフン　イヨ　フーフーノー
フーノワフ　フン　フン　フン　フン

鹿児島館の歌

一、鹿児島の館は心よい館　お盃たもるよ
　おさあづきゅ　レイヤレカアアー　カタローヨー
　ハレヨー　ネー
二、朝寝しい　起きいーてヨー　ツツガヨー　水見れば
　わがお顔の　ソラ　鼻がヨ　オサハル
　シンヤレヨーウ　不思議　ハンヨーホネ

歌上げ

キヨウノオッチエノ　オスミエノ　デンワハレ
カッバガソサヨヤー　ヨケンソサツ
ナーカンゾュクソ　インインイン　モウタサン
ワーセンゾークソ　インインイン　モータ　ハレナセン
バーイ
ララ　アーホイ　イヨナンセン　バイララ　ツーヨーノ
タワ
セッカイヂャサツ　オダワンキョウヨンザンケッヂャ
ハレワカンザンジットッヂャ
ハレワイサカヂャホイ　サカヂャホイ　サンサカソサ
恵比須　大黒ヂャ　ハンワフルフダ
オサムサンニャーガソンテバ
ソウジンソウラレヨー　モーテンヨ　モーテンヨ

戻り歌

一、明日は発つ発つ　鹿児島を発つが
　もはや桜島　あとに見る（ハイヤ　ハイヤ）
二、佐多の岬のお庭の蘇鉄
　花は咲かどんかい　葉が見事（ハイヤ　ハイヤ）
三、ものの見事は　那覇の町
　黒い物売り　紺地売り（ハイヤ　ハイヤ）
四、ものの見事は　那覇の町
　白い物売り　オカベ売り。
（かっこ内は、踊り手の掛け声）

※戻り歌の四の歌詞は、平成27年度時点では、唄われていない。

ステップ5 どこに行けば見られるの？

◎練　習：場所　宮之前営農研修センター
　8月16日の盆踊り披露に向けて、
　小中学生に指導（8月）
　元旦の奉納に向けて練習（12月）
◎本　番：光明寺境内での元旦奉納

伝統行事

薩摩一の宮

枚聞神社ほぜ祭

薩摩一の宮枚聞神社

由来・エピソード

枚聞神社によると、島津斉興公（島津家第27代当主・薩摩藩の第10代藩主）がまとめた『三国名勝図会』に枚聞神社の御神幸祭の様子が描かれていることから、ほぜ祭の歴史は200年以上続いていると言われている。

10月14日に前夜祭、15日に例大祭、16日に御神幸祭と豊年相撲が行われる。

指宿まるごと博物館 三情報

枚聞神社は、「薩摩一の宮」として、古来朝廷からの尊崇が厚く、薩摩藩主島津家からも厚い崇敬を受けた神社である。本殿は鹿児島県有形文化財に指定されているほか、宝物殿には、国指定重要文化財（旧国宝）である『松梅蒔絵櫛笥附属品竝目録共　一合』が保管され、一般公開されている。これは、室町時代の化粧箱で、高貴な女性の持ち物と推察されている。

見どころ

枚聞神社のほぜ祭は、薩摩地方の大行事といってもよいほど知られていて、ほぜ祭では、様々な出店が並び、農機具や衣類、家財道具等を買う大人たちや、玩具やお菓子を買う子どもたちで賑わっていたと記されています。現在でも、その様子は変わらず、毎年多くの人で賑わうことからも、ほぜ祭が指宿市はもとより、多くの人々から愛されていることがわかります。

薩摩一の宮　枚聞神社

国指定重要文化財
『松梅蒔絵櫛笥附属品竝目録共　一合』

ステップ1 だれが守り伝えているの？

枚聞神社ほぜ祭では、前夜祭、例大祭、御神幸祭が3日間に渡って執り行われる。

前夜祭では枚聞神社に古くから伝わる『神舞』が市青年団員により奉納される。

例大祭では、氏子や参列者が玉串を捧げ、地域の安全や五穀豊穣をお祝いする。

御神幸祭では、お神輿が開聞地域にお出かけになり、神馬（しんめ）や猿田彦、地域の奉仕者が随行し、開聞地域をご覧になる。稚児行列も御神幸祭に加わり、多くの地域住民が枚聞神社のほぜ祭に参加して、盛り上げている。

ステップ2 前夜祭を見てみよう

前夜祭で奉納される『神舞』では、古くから伝わる鬼神面が使用され、かがり火が焚かれる神秘的な雰囲気で奉納される。

浦安（うらやす）の舞（まい）（鈴）

天鈿女命之舞（あめのうずめのみことのまい）

ステップ3 例大祭を見てみよう

例大祭では、枚聞神社の神職が神事を執り行う。本殿の御扉（みとびら）が開かれ、お供え物の米や塩、酒、野菜などが供えられる。宮司や献幣使（けんぺいし）、氏子や地域の役員などが玉串を捧げる。また、神舞も奉納される。

ステップ4 御神幸祭・稚児行列を見てみよう

御神幸祭は、「デバイ」と呼ばれている。神輿（みこし）に御神体を移し、猿田彦と共に氏子や巫女たちが、十町東部、十町西部、仙田・上野、川尻の4地区を輪番に巡幸する。御神幸先である旅所に神輿が到着すると着輿祭が執り行われ、玉串奉奠が行われる。

稚児行列が行われ、稚児衣装を身に着けた子ども達が保護者と一緒に街中を歩く。

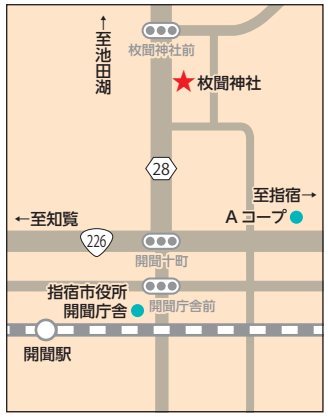
ステップ5 豊年相撲を見てみよう

豊年相撲では、大人や学生の相撲に先立ち、その年に生まれた赤ちゃんが、健康に健やかに育つようにと、頭にねじり鉢巻きを巻き、名前の付いた前掛けをつけて土俵入りをする。

また、小学生相撲では友達の応援に熱が入る。

ステップ6 どこに行けば見られるの？

◎場　所：枚聞神社
◎時　期：毎年10月14日～16日



伝統行事

薩摩一の宮

枚聞神社神舞奉納

神舞保存会

古くから薩摩一の宮に伝わる神舞奉納。
五穀豊穣や地域の安泰を祝い，荘厳に舞う。

由来・エピソード

毎年10月14日の夜7時から、枚聞神社ほぜ祭の前夜祭として「神舞」が奉納される。かつては、神社の氏子が舞手となり奉納していたが、後継者不足となり、昭和50年代から当時の開聞町青年団が受け継いだ。現在も、青年団員が中心となり、若手の指宿市役所職員らが継承活動に取り組んでいる。

見どころ

枚聞神社の神舞は、女性が舞う「浦安の舞」と男性が舞う「剣之舞」「南方之舞」「中央之舞」「天鈿女命之舞」があります。刀や扇子、鈴などを使って激しく、そして力強く舞う男性の舞と、優雅で穏やかに舞う女性の舞が、次々と奉納されます。

指宿まるごと博物館 ミニ情報

枚聞神社によると、神舞は33番あり、かつては夜通し舞われていたという。そのことを物語るように、枚聞神社の宝物殿には、神舞で使われたと考えられる衣装と24枚の面が保管されている。「南方之舞」「中央之舞」「天鈿女命之舞」で舞手がつける面は、この宝物殿に保管されている面を使用している。

ステップ1 だれが守り伝えているの？

「神舞保存会」は、指宿市青年団連絡協議会開聞支部の会員が中心となり、保存継承活動に取り組んでいる。会員は、市内の若者が中心で、神舞の保存継承のほか、清掃活動やクリスマスイブの夜にサンタクロースに扮して家庭を訪問したり、節分の日に保育園や児童館に鬼役で訪問したり、地域の子どもたちとのふれあい活動や地元の活性化に取り組んでいる。神舞の指導には、青年団OBも協力し、伝統継承の一翼を担っている。

ステップ2 練習風景を見てみよう

先輩から後輩へと神舞の所作が受け継がれていく。

ステップ3 楽器を見てみよう

1 篳篥　2 龍笛
3 神楽笛　4 太鼓・バチ

男性が舞う神舞では龍笛と太鼓を、女性が舞う浦安の舞では篳篥と神楽笛がそれぞれ使われる。

ステップ4 舞の道具や衣装は？

【剣之舞（鬼神之舞）】

[衣装] 毛頭、羽織、帯、袴、白足袋
[道具] 刀、神楽鈴、たすき
[楽器] 太鼓、龍笛

[舞の特徴] 面をつけず、祭文はない。舞の中で、でんぐり返しに似た動きが2回あり、1回目は両手で、2回目は片手で体を支えているため、練習が必要な動きである。

【南方之舞】

[衣装]毛頭、面、猿田彦の衣装、帯、白足袋
[道具]扇子(右手)
[楽器]太鼓、龍笛

[祭文]ゆるぐとも　よもやおきしの
かなめいし　鹿島の神の
あらんかぎりは
[舞の特徴]枚聞神社の神舞で最も彩りが豪華な衣装。祭文の後半で、突如後ろを振り向き走り出すため、観客から驚きの歓声があがる。

【浦安の舞(扇)】

[衣装]髪飾り、千早、白衣、緋袴、白足袋
[道具]扇
[楽器]篳篥、神楽笛、太鼓

[歌詞]天地の　神にぞ祈る朝なぎの
海のごとくに　波たたぬ世を
[舞の特徴]扇の舞は、優雅で穏やかに舞う。扇にあしらわれた飾りが、舞う動きに合わせてふわりと揺れ、優雅さを際立たせる。

【中央之舞（鬼神之舞）】

[衣装]毛頭、羽織、帯、袴、白足袋
[道具]刀、神楽鈴、たすき
[楽器]太鼓、龍笛

[祭文]神々の　天の逆鉾　振る時は乱れし鬼も　かなわざりけり
[舞の特徴]舞は、剣之舞と似ている。祭文があり、天に向かって剣を突き刺すような動きがあり、中央之舞の最高潮とも言えるシーンである。

【浦安の舞（鈴）】

[衣装]髪飾り、千早、白衣、緋袴、白足袋
[道具]鈴
[楽器]篳篥、神楽笛、太鼓

[歌詞]天地の　神にぞ祈る朝なぎの海のごとくに　波たたぬ世を
[舞の特徴]鈴と鈴から垂れた五色布を使い、優雅に舞う。舞の随所で鈴を鳴らし、舞に華やかさを添える。

【天鈿女命之舞】

[衣装]毛頭、面、羽織、帯、袴、白足袋

[道具]扇子(左手)、鈴(右手)

[楽器]太鼓、龍笛

[舞の特徴]舞は単調で、常に鈴を鳴らしながら賑やかに舞う。舞の途中で約4分間、祭文を暗唱する。神舞を締めくくる舞で、優雅で賑やかに舞う。

[祭文]千磐耶経神の教えか鈴の声、今煕を告げてまいらん。素盞嗚命天照大神の位を奪わんとし給いては、天照大神、天の岩戸に堅くこもらせ給うが故、天下闇となり、日月の光を失い見ることなし。八百万の神等、天に仰き地に伏し悲しみ給いしは限りなし。神人の歌に曰く、天照大神の光を偲びては八百万の神々涙ぐみけん。吾天照大神の秘曲を探し給うとて天のかぐやまの土をとり御形を鏡にうつし奉らん。夫れ初めの鏡にきず付き出でければ、是きず付けたる鏡とて紀伊の国の日前の明神と祝奉るなり。第二番目に鋳たる鏡は、手草木を守る木にて岩戸の前に捧げ給う。夫、上枝には青き玉を掛け天の色をも表したり。中の枝には件の鏡を掛け天照大神の御形を表し、下の枝には五色の幣帛を掛け草木国土の色をも表したり。その時、天鈿女命まさかきをかつらとし、ひかけを襷とし左の御手にはおけらのきささをもち、右の御手にはさなぎの鈴を取りえらくをなし給う。歌の声笛鼓の音、岩戸に響きて天照大神、岩戸を細めに開け給う。御光鏡にうつり御容向を成給う。

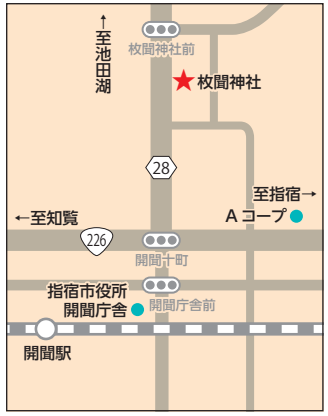
天照大神の御詠歌に曰く「青幣帛　たくさの枝をとりかざし　歌えばあくる　天の岩戸かな」

この所に宮人のましまさば、秘曲の神楽を奏し奉るなり。

ステップ5　どこに行けば見られるの？

◎練　習：場所／枚聞神社　参集殿
時期／毎年９月上旬から１０月中旬

◎本　番：開聞郷土芸能祭／開聞総合体育館　サブアリーナ（９月第１日曜日）
枚聞神社　前夜祭／枚聞神社　境内（１０月１４日）
枚聞神社　例大祭／枚聞神社　拝殿（１０月１５日）



供養

薩摩半島最南端の指宿には、古来よりあらゆる地域から文化が伝わり、守り伝えられている。

市内各地で、さまざまな祈りの形を見ることができる。

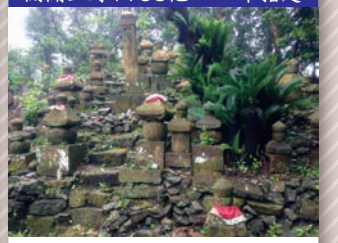
弥次ヶ湯古墳

十二町97-1他　市指定

弥次ヶ湯古墳は、国内最南端の古墳。5世紀後半～6世紀前半のものと考えられる。円墳で、墳丘の直径は約18m、周りを巡る溝の幅は約2mを測る。弥次ヶ湯古墳の発見までは、川内川より南の薩摩半島は古墳の「空白地帯」と考えられており、土こう墓(土葬の墓)が主流と見られていた。この発見で日本の古墳の分布が薩摩半島の南端まで広がることが判明したのだ。現在は、保存のために埋め戻され、弥次ヶ湯団地の中の公園となっている。

上野神社周辺供養塔群

開聞上野1963他　市指定



上野神社周辺には、「上野どんの墓」と呼ばれる百数十の供養塔群がある。供養塔群の中心には、比翼塚(愛し合って死んだ男女を一緒に葬った塚)ともみられる2墓の宝塔があり、周囲には五輪塔や板碑等が並べられ、丘をつくっている。

モクヨ山六地蔵塔(仙田室屋)

開聞仙田1444　市指定

そうめん流しで有名な唐船峡近くには、むくろじの大木の林があり、古くから「モクヨ山」と呼ばれている。この山には、天正10年(1582)に建てられた高さ2mの六地蔵塔と数基の五輪塔、1基の板碑がある。六地蔵塔には、頴娃城にいた平姓池田対馬守が、天正8年(1580)に急死した次男、新三郎の成仏を願って供養したという碑文が刻まれている。

小川六地蔵幢

山川小川　市指定

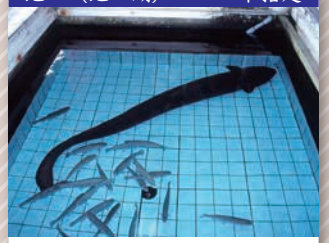
小川の六地蔵幢は天文22年(1553)に作られたもの。六地蔵幢は、六種類の地蔵が六道(地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天道の6つの世界)を輪廻転生するすべての生きものを救うとする説から生まれたもので、室町時代に多く造られた。小川の六地蔵幢には、豪族と思われる法名「雲心浄秀上座」とその妻が生きている間の「現世安穏」と死後の「安楽国への往生」を願った文章、そして天文22年(1553)の年号が刻まれている。

自然

「火山銀座」と呼ばれるほど指宿には多くの火山がある。10数万年間におよぶ火山活動による火山地形は名勝地となり、そこには多種多様な動植物が息づいている。

おおうなぎ群せい池

池田（池田湖）　市指定



九州最大の湖、池田湖には、おおうなぎが生息している。おおうなぎは海で産卵し、生まれた稚魚は、川を遡って親が住んでいた場所に帰ってくるという。しかし、池田湖から海に注ぐ川は、明治9年に新川ができるまでなかったのだ。いつごろから池田湖に住んでいるのかは定かではないが、昭和25年度の調査では生息が確認されている。

ソテツ自生地

山川福元区･浜児ヶ水区 赤水鼻　国指定

竹山や赤水鼻は、大隅半島の佐多･内之浦とともに鹿児島県のソテツ自生地の北限として知られ、国の天然記念物に指定されている。ソテツ類は、古生代末から中生代、“恐竜の生きた時代”に最も栄えた裸子植物。現世のものは「生きた化石」とも言われる。その成長は遅く、1年に1cmほどしか伸びないため、肥沃で平坦な土地では他の植物との競争に勝てない。そのため、他の植物が生育できない岩や崖に生えるという。

上西園のモイドンなど民俗神

東方2310-1　市指定

モイドンは、「森」に「殿」という敬称をつけたもので、森神という意味。その神体が樹木であることが特徴だ。指宿は県下で最もモイドンが多く、40近い例がある。その一つ、上西園のモイドンは東方道上にある。このモイドンの依代はアコウで、直径が2m余りの巨木。古くは、血のつながった同族集団の神として祀られていたとする説が有力だ。

建造物

自然豊かな指宿では、「木の文化」と「石の文化」が成熟し、造形豊かな建造物が築かれている。

歴史ある個性豊かな建造物が楽しめる。

湯権現

西方1408　市指定

殿様湯の南側にある湯権現は、濵﨑家第5代の太左衛門が創建した。権現とは、仏が日本の神に姿を変えて現れること。「湯権現」という名前は、温泉のさまざまな効き目が神仏の力によるものという信仰の表れであろう。湯権現の鳥居は異常に小さい。昔の人が小さかったからではない。くぐる人は必ず頭を下げなければならないように、作られたのだ。また、建立した太左衛門の身長と同じ高さとも言われている。

殿様湯跡

西方1408　市指定

現在残っている殿様湯跡は、天保2年(1831)に第10代薩摩藩主島津斉興によって二月田に設けられたものだ。浴槽は、お湯が4つの湯つぼを次々に回って適温になるように工夫されている。名君島津斉彬もこの温泉別荘が気に入ったのか、度々利用している。弘化3年(1846)、斉彬がここに滞在中に火事が起き、濵﨑家に避難したとの記録が残っている。実は、斉彬が花火を作らせる実験をしていて、失火した模様だ。

信仰

明治時代初めの廃仏毀釈により、市内の寺院や仏像が壊された。その中で、地域住民の手により、難を逃れた仏像や石像が、現在も大切に守り伝えられている。

信仰を守る当時の純粋な心が垣間見られる。

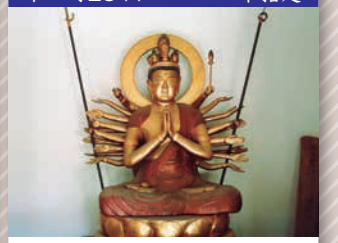
指宿光明禅寺の木造阿弥陀如来立像

十町2768(光明禅寺)　県指定

南迫田地区の光明禅寺には、木造阿弥陀如来立像が保管されている。鎌倉時代中期に慶派の仏師により彫られたとされる。明治時代、県内では廃仏毀釈の嵐が吹き荒れた。この如来立像も、壊され焼かれる直前に、地元の若者に助けられた。しかし、近年、如来立像のいたみが激しくなったため、修復が行われ、仏像は彫られた当時の姿に戻った。

木造千手観音坐像

十二町2549　市指定



十二町小田の大円寺跡と推定される墓地の一角に安置されている。廃仏毀釈の際、村の青年達の手で持ち出され、隠されていたため、壊されずにすんだという。現在も大切に保管され、地元の人々に信仰されている。千手は慈悲の広大を示すという。今でも人々に慈悲を差し伸べている。

方柱板碑を中心とする民俗神群

新西方455　市指定

渡瀬公民館の敷地内には、天文14年(1545)に造られた方柱板碑がある。板碑の正面には5体の仏の名が刻まれている。不動明王、釋迦牟尼佛、摩利支尊天、文殊師利菩薩、青面金剛である。他には、明和7年(1770)と天明4年(1748)に建てられた庚申塔(こうしんとう)、明治24年の早馬殿(はやうまどん)、年代が不明の田の神様が残っている。渡瀬集落での信仰の歴史が凝縮した石塔群である。

馬頭観音

池田小浜　未指定

池田には、名馬「池月」の伝説がある。「昔、池田湖の畔にすばらしい親子の馬がいた。馬の噂は鎌倉に届き、子馬は召されていった。「池月」と名付けられた子馬は、頼朝の乗馬とされた。子馬は、「宇治川の先陣争い」にも加わるなど活躍した。一方、残された母馬は、子馬を探し求め池田湖へ。湖面に映った自分の姿を我が子と間違えて飛び込み、命を落としてしまった。あわれに思った村人たちは、母馬の霊を祀るために観音様を祀ったという。今でも、母馬の命日とされる1月には例祭が行われている。

成川板碑

山川成川井手方　市指定

板碑とは、仏像や仏教に関する文字を刻んだ石塔のこと。鎌倉時代に関東で誕生し、武士の移住に伴って全国に広まった祈りの形だ。成川板碑のある高台は、昔、成川を治めていた鎌田氏の居城跡と伝えられ、今でも空堀が残る。板碑には、“西国三十三か所観音霊場”を巡礼したことが刻まれている。群雄割拠の戦国の時代に、遠く近畿まで参拝した信仰の深さが偲ばれる。

生産

豊かな自然に囲まれた指宿では、清水流れる水田や水はけの良い火山性噴出物が厚く積もる畑などが広がる。

石造等には、先人達の労力や知恵、豊作の祈りが感じられる。

前田利右衛門墓石

山川岡児ヶ水　市指定

山川岡児ヶ水に生まれた利右衛門は、さつまいもを普及させた人物として有名だ。南島航路の船員であった利右衛門は、宝永2年(1705)、琉球からさつまいもを持ち帰った。そして自分で栽培したのち、一軒一軒に栽培の方法を伝えて回ったそうだ。さつまいもは多くの人々の命を飢饉から救ったという。明治30年には、その功績をたたえて徳光神社が建立され、利右衛門は「玉蔓大御食持命(たまかずらおおみけもちのみこと)」として祭神となった。

田の神石像

山川成川下原　市指定

明和8年(1771)、成川下原の二才中(15、6歳～24、5歳の青年達)が造ったものと伝えられる。短い袖の上着にたすきを掛け、下着は裁着けばかまを着けている。右手には小さなしゃもじ、左手にはだんごのようなものをのせている。均整のとれた安定感のあるこの石像は、古い田の神像の南限を示すものだ。

尾下の田芋田

山川利永　市指定

尾下地区では、「田芋」という里芋によく似た芋が栽培されている。田芋は水田のような水のあるところで栽培され、小芋ではなく親芋を食べるのが特徴。田芋は熱帯性タロイモの仲間で、種子島以南の南の島々に広く分布する。サツマイモの伝来以前は、南西諸島の人々の主食であったといわれる。かつては、新永吉や成川でも栽培されていたが、現在では尾下集落だけに残されている。

地名

指宿には、地形や土地利用にちなんだ地名が数多く残されている。

指宿の歴史・文化を知る上でも地名は大切であり、温泉豊かな指宿を表す「湯豊宿」のある板碑は必見である。

久保庵上の方柱板碑

西方8208　市指定

正面をみると、禅宗の悟りのシンボル「○」の中に「妙」の文字が刻まれている。碑文には「松尾城の城主である津曲美濃守(つまがりみのののかみ)が、天文16年(1547)2月20日から大みそかまでの間、僧侶10人に法華経の経典千部を全部読ませたので、この供養で子孫は安らかに楽しく暮らすことができる」との内容の文章が刻まれている。当時、仏教が領主層の間に広まっていたことがうかがえる板碑だ。

板碑（湯豊宿）
十町2768(光明禅寺)　市指定

光明禅寺に残る板碑。天文12年(1543)に建立。表面に「湯豊宿」と刻まれている。この板碑は指宿の地名の由来だといわれるが、事情がちょっとちがう。指宿は、鎌倉時代の初めから「揖宿」と表記されていた。「いぶすき」の地名の由来は、「湯豊村」とされ、板碑に刻まれたのと同じ意味だ。しかし、後にも先にも「湯豊宿」と表記したのは、この板碑を作らせた津曲兼任の時代のみである。

政治

中世・近世における指宿は、指宿氏をはじめ、頴娃氏、島津氏等が治めてきた。

子孫繁栄や武運、先祖供養など様々な願いを込めた為政者の祈りが感じられる。

興玉神社（九玉大明神）の棟札
開聞仙田　市指定

興玉神社には、戦国時代から江戸時代の棟札が5枚伝わっている。最も古いのは、天文5年(1536)12月20日と記された棟札。頴娃氏第4代兼洪の時代のもので、頴娃氏の延命・子孫繁昌・武運長久・郡内安全の祈願などが記されている。兼洪の家来の竹内実通が、大工の田中左近太夫、鍛冶職人の上野景勝に命じて九玉大明神の再建造を行った時のものだ。今から500年近く前の開聞地域が、頴娃氏の統治下にあったことを示す貴重な資料である。

桜井神社木像銘文
山川大山3339　市指定

大山にある桜井神社には、クスの木で造られた男女各一体の木像が安置されている。男像は高さ43.8cm、女像は高さ33cm。木像の背面には、天正6年(1578)の銘文が書かれている。銘文には、「諸願成就処」(諸々の願いが成就する処)という一文と、当時この地を治めていたとみられる長井播磨守實正の名前や大山と小川の大宮司衆(神社での祭祀に奉仕する者)の名前、そして仏師の名前が記されている。

今和泉島津家墓地
岩本麓　市指定

今和泉島津家は、延享元年(1744)、島津家の跡継ぎが途絶えぬよう設けられた「一門家」のひとつ。今和泉島津家墓地には、初代の忠郷から忠温、忠厚、忠喬、忠剛(篤姫の父)、忠冬(篤姫の兄)までの6代の殿様とその奥方が祀られている。14基の墓と100基あまり立ち並ぶ灯籠は、この地を治めた殿様の威厳を今日に伝えている。

今和泉島津家伝来の手水鉢
岩本2744　市指定

今和泉島津家屋敷は、宝暦4年(1854)、初代の忠郷が建てさせたものである。推定される敷地面積は、約4300坪にも上る。言い伝えでは、屋敷には巨大な門があり、屋敷内には石庭があったという。今和泉小学校の海岸側には当時の石垣の一部や松林(隼人松原)が、校庭には井戸が残っている。今和泉島津家伝来の手水鉢も、往時を偲ばせる貴重な文化財である。

第八代濵﨑太平次正房墓
湊２丁目4-1他　市指定

第8代濵﨑太平次は、文化11年(1814)、湊を拠点とした余(ヤマキ)という商家に生まれた。薩摩藩の後ろ盾もあって造船業や海運業で活躍。日本最大級の船団を率いて巨万の富を築き、調所笑左衛門の右腕として、薩摩藩の財政再建に大きな役割を果たした。文久3年(1864)、大阪で客死。現在、墓は湊公園内に残されている。

風習

指宿は「古い風習や行事が残されている」と言われている。各地域で継承されてきた風習にふれてみると、古き時代の精神性を感じることができる。

利永の力石
利永集落センター（山川利永468）市指定

その重さ97.6kg。ちょっとやそっとでは動かない。昔、村の青年たちはこの石を持ち上げ、担ぎ、運び、力を競うものだった。力石は一つの通過儀礼。ほぼ米俵ほどの重さの石を持ち運ぶことは、一人前の証だったのだ。力石は、戦前には山川地域でも各集落にあったが、現在ではほとんどが失われている。現在では利永集落センター庭に保管されている。

指宿まるごと博物館
指宿文化遺産図鑑　第２巻
～郷土芸能・伝統行事・有形文化財～

平成 28 年 3 月

編　者　　指宿まるごと博物館実行委員会

指宿市考古博物館
時遊館 COCCO はしむれ
〒 891-0403 鹿児島県指宿市十二町 2290
TEL 0993-23-5100
http://www.minc.ne.jp/cocco/index.htm

印刷・製本　　渕上印刷株式会社
〒 891-0122 鹿児島県鹿児島市南栄 3-1-6
TEL 099-268-1002
落丁・乱丁はお取り替えします。
許可なく複製、転載することを禁じます。
© 指宿まるごと博物館実行委員会／時遊館 COCCO はしむれ
Printed in Japan

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

平成27年度文化庁文化芸術振興補助金
（文化遺産を活かした地域活性化事業）

利永の力石